

# 【学生連携部門】

認知症の人が利用できる  
場所を見つける調査

助成団体

サポートくらぶ



**be Orange**



# 活動の様子

# | 活動内容

認知症当事者も一緒に、学生と一緒にカフェなどを回り、居場所をつくる場所を確保するためのヒアリングを行ってきた。どのように説明したら受け入れてもらえるかなどを一緒に考えながら行うことができた。まずは、理解のある認知症カフェをマップにして気楽に出会い、話をしてくオープン（公開）の場をまとめてみました。

認知症になった時、介護保険サービス以外の利用できる場所が、地域のどこにあるのかわからない。認知症になったことで、落ち込み、家を出たくないと思うことがあったり、家族も一緒に気晴らしに行こうと思っても、学校や仕事で、なかなか時間を作ることが難しかったりする。そんな時、「こんな場所があるよ」「応援してくれる人がいるよ」と教えてあげたい。

また、情報を集約する過程でクローズされた情報があり、気づきをまとめた。

# | 活動実施による効果

(地域への影響や認知症当事者の方の変化など)

情報をまとめていくにあたり運営の方法や活動の方向などによりクローズ（非公開）な場も多くあることに気づくことができた。こうした非公開な場は、たどり着くのもむずかしい。

- ・オープンな情報→公開されており誰もが利用できる、相談できる環境
- ・クローズな情報→非公開で特定された団体の利用者に利用は限られていることが多い。

# ｜活動実施による効果

(地域への影響や認知症当事者の方の変化など)

## 【見えてきたもの】

(オープンの居場所)

- ・参加しやすいが、当事者の利用は少ない（専門職が多い）
- ・若者等でも気楽に参加はできる
- ・公的機関等で繋がることできる
- ・目的（ニーズ）がない場合でも参加はしやすい（継続性はない）
- ・誰か繋がりがあれば継続しやすい
- ・インフォーマルな居場所ではあるが公表されていることで公的な居場所のように感じる
- ・相談機能があり、そこから公的な機関（制度）に繋がることが多い

# | 活動実施による効果

(地域への影響や認知症当事者の方の変化など)

## 【見えてきたもの】

(クローズの居場所)

- ・利用者（当事者等）が多いため受け入れの制限がある
- ・誰かからの繋がりや、紹介がないと行くことは難しい
- ・専門的で、主体的に活動できることが多い
- ・興味関心があると発展していくことがある（逆に興味などないと継続できない）

# ｜ 活動実施による効果

(地域への影響や認知症当事者の方の変化など)

## 【考察】

目に見えているオープン（公開）な場とクローズ（非公開）な場があり、二つの異なる役割の居場所がある。

主たる目的（ニーズ）がなくてもオープンの居場所には参加しやすいが継続性や次へのステップには発展しにくい。またクローズの居場所では主たる目的（興味）があれば継続性や新たな活動などへ進展しやすい。ではあるが相互をつなぐ役割の機関がないことから、多様な情報が集まる場所（あるいは人）と繋がる必要がある。

利権や制度にも縛られない居場所が両方の架け橋の役割を持つことで、見える情報、見えない情報の多様な情報が集約され、必要なひとに必要な情報が繋がるオープンな場とクローズの場の間間的な役割の居場所が必要と考える。

# | 助成金の使用実績

助成額：200,000円

人件費	50,000円
謝金	30,000円
交通費	20,000円
デザイン費	50,000円
イベント費	20,000円 (当事者交流会)
会議費	10,000円
事務費	20,000円
合計	200,000円